

原町の温泉掘削工事が完了か？



工事業者が発表：温度 38.4度 湯量 毎分84リットル

彦根市原町の地権者で構成する原町開発委員会と㈱トランスワイドは、名神彦根インター北隣に巨大ギャンブル施設と共に温泉施設の開発を計画し、平成19年の竣工に向け、温泉掘削工事を続けていました。

この掘削工事にあたって「中なか由よし商会」は同社のホームページ上で、このほど「掘削完了、温度38・4度、湯量毎分84リットル」と発表しました。

温泉掘削の完了が事実とすれば、いよいよ建設工事に向かって本格的に動き出すものと思われ、事態は緊迫したものとなります。

先ず「競輪から着工」と発表！

「場外車券舟券売場の問題は獅山市長が建設に反対しているので、もう大丈夫だ。市長に任せておこう」という声をよく聞きます。

確かに、競艇の場外券売場の設置を許可する際には「市長の同意」が必要です。つまり、市長が反対姿勢を崩さない限り許可されないことになっています。

しかし、問題は「競輪」です。競輪を管轄する経済産業省は、「競輪の場外券売場設置を許可する条件として『市長の同意』は必要ない」としています。

これまでも、大分県日田市で、市長の反対を押し切って設置が許可された例があります。

「競輪」については「市長まで安心」と言うわけにはいきません。

これらの事情を考慮したのか㈱トランスワイドは、「競艇」を先延ばしして、先ず「競輪」に着工する計画を、今年4月に発表しています。

「競輪」と温泉施設を第一期工事として平成19年に竣工させる、続けて「競艇」とシニア施設を第二期工事として平成20年に竣工させるというものです。

この事業計画によれば、いよいよ来年から「競輪」と温泉施設の建設工事に取りかかるものと思われる。

署名にご協力を！

「市長が反対しても設置許可が出るとなれば、阻止するのは無理ではないか？」と心配する人もあります。

ところで、彦根に計画している場外車券売場で車券を売るのは、競輪事業を営営する大津市などの地方自治体です。

たとえば、場外車券売場の設置を許可しても、大津市などが手を引けば、この計画は消滅します。

市民の圧倒的多数が署名などを通じて、大津市などに対し、彦根に進出しないよう要請していけば「競輪の場外券売場建設」を阻止することが出来ます。